

日本とモンゴルの外交関係が1972年2月に樹立されて、本年は50周年です。ちなみに研究会がINAFで開催され、関係者の1人として嬉しく思います。

不得意なテーマで皆さまの予想と私の問題意識にずれがあるかも知れませんが、経験から外務省がでてくる話が多いのにあらかじめお許しをいただきます。ときにはモンゴルとの外交関係樹立の背景をご紹介し、この国と外交関係を樹立した意味をご理解いただけたら幸いです。はみ出しの話題は(閑話休題)に纏めました。

I 社会ギャップ 交流を担う層の彼我のギャップ、社会を担う年齢層のギャップ

(1) 社会ギャップ 友好活動の担い手のギャップと年齢層のギャップ

まずこの社会的ギャップですが、これからの日本とモンゴルの関係を背負う層にギャップがあるという深刻な問題です。日本モンゴル関係でモンゴル側はほとんど若者で、日本側は60歳以上の老人であり、平均寿命の違いからくるというご指摘が、モンゴル学会で清水大使からありました。これは問題です。交流に当たってはこのことをよく検討して実施する必要があります。そして日本の青年がモンゴルにもっと関心を寄せて交流していただけたらと思います。

それでは彼我の平均寿命についてお話します。モンゴル人の平均寿命は次のとおりです。

モンゴル人の平均寿命 『モンゴル国統計集 2020』 MHHXX20701

年	2016	2017	2018	2019
男性	65.58	65.88	66.11	66.38
女性	76.10	75.44	75.78	75.96

モンゴルの現在に近い過去の日本の平均寿命は次のあたりでしょうか。

日本 男性 1969 (1965) 年 67.74
女性 1979 (1975) 年 76.89

注.公表年、()内、調査年

日本人の平均寿命 『日本国勢図会 2017のみ日本経済新聞 20170721』

年	2016	2017	2018	2019
男性	81.10	81.09	81.25	81.50
女性	87.20	87.26	87.32	86.90

MHHXX20701

2019年のモンゴル人男性の平均寿命は66.38歳ということで、1969年公表の日本男性の平均寿命とほぼ近く、現在の日本人男性と約15歳の開きがあり、女性は1979年の女性の平均寿命にほぼ近く、現在の日本人女性と約11歳の開きがあります。

政治リーダーも同じように開きがあります。97代までの総理大臣の平均年齢は62.5歳だそうです。最近のモンゴル大統領6人の平均年齢は49.5歳です。平均就任年齢は13歳の開きがあります。

故ツェデンバル元首相は24歳の若さで書記長になりました。それでもモンゴルをなんとかリードしました。

民主革命以後のモンゴル大統領 6 人の中で一番若くて就任したエルベグドルジさんの就任年齢は 46 歳です。それでも二期大統領を務められました。日本にも日本の歴代首相の中で最も若い伊藤博文首相がいました。44 歳です。若くてもなんとかなりました。

日本社会がもっと活性化するには各界リーダーの若返りが必須だと思います。主要先進国で 30 年間日本の不活性状態を招いたのは、老年層の責任だと思っています。

(閑話休題 統計)

横道にそれますが、モンゴルの統計についてちょっと触れたいと思います。

モンゴルには社会主義時代、国家中央統計局というのがあり統計集を毎年刊行しておりました。私は 1960 年と 1963 年からは毎年入手して所有しています。社会主義時代は一部の統計数字を伏せていましたので、新聞から採取した数字を統計集と照合したりして、マイ統計集を作成していました。

民主主義になって国家統計委員会となりました。社会主義時代統計局員は全国津々浦々におりましたが、国家統計委員会の方によると、市場経済以降、全体で 70 名ぐらいと激減しました。

市場経済への移行期、ある権威ある国際組織の課長の方と飛行機に同乗しました。今回は何がお出張目的ですかと問いましたら、モンゴルの統計は当てにならず、正しい統計を作成するためとのことでした。帰路、また飛行機が同じでした。統計資料は集まりましたかと質問しました。もう統計集が完成したとおっしゃいました。さすが世界的な組織、能力も抜群、1 週間で統計集を完成するとはと驚きました。

しかし、まてよ、家畜の種別に頭数を数えたのかしらと思いました。1 週間ではまったく不可能だと思います。しかし、モンゴルの統計は信用ならないと公言しておられた。どのような手をつかったのだろうと思いました。社会主義時代、年末近くのツールロゴという家畜頭数の勘定は死活の闘いでした。翌年の生活のすべてがかかっているからです。私は牧民のこの必死さを信用していました。やがて発行された世界銀行の統計はモンゴル統計をほとんどパクリまくりでした。私はモンゴル統計を購入し続けています。先進国の方で得意そうにモンゴル統計が信用できないと言う方によく会いますが、そう言う前にご自分の国の統計はどうなのですかと聞きたいと思います。

最近、年ごとに統計集が厚くなる一方で、昨年発行された 2020 年版は 789 頁になります。2021 年版はこの夏発刊されるものと思います。

(2) ギャップ 交流相手は先進国を選ぶ

細川内閣のとき、内閣官房で 5 名の特別チーム（国際文化交流担当室）が組織され、国際文化交流の問題をやっていました。エコノミック・アニマルという評判を交わすための方策を練っていたのですが、その中で友好都市の問題、沿岸航空路拡充などの問題も取り上げられました。アジアの途上国は日本とやりたい。日本の諸都市はアメリカ、ヨーロッパとやりたい。どうしてもこのような志向になってしまいがちです

そこで問題は日本の若年層にモンゴルについて興味をもっただけなのかということこれはなかなか難しい問題です。もちろん懸命に日本モンゴル友好活動に邁進されている青年が各分野におられ、頭が下がる思いです。

でも、日本全体としては、明治以来の欧米崇拜とまで言える欧米志向です。もし、疑問を持たれる方は主要メディアで外国はこうです。だから日本は駄目ですという例に上がっている諸国は全部欧米です。モンゴルに見るべき優れた習慣があります。そのよなところを見て、どうなっているか学ぶ姿勢も大事にしたいものです。

例を挙げます。日本では受験のために子供を塾に通わせています。夜の通塾、金銭的負担、子供の肉体的、精神的負担は大変です。モンゴルで見た例では、例えば子供が化学の授業で遅れをとったとします。すると親は化学の先生を例えば5時間雇い、補習授業していただきます。判断は親です。経費負担も子供の負担も少なくて傷の浅いうちに修復できます。

日本はアメリカ、ヨーロッパとやりたい。アジアの国々は日本とやりたい。日本の若者は韓国のアイドルを除き、アジアの国々、とくに強国でない国については全く興味を引かないようです。モンゴルについては「草原」といっても、「星」といっても興味をもっていただけずお手上げです。

(3) スローライフ 円い社会の省力化

日本とモンゴルとの間にある大きな社会的ギャップのもう一つの問題は四角い社会と円い社会です。モンゴルの方に聞けばモンゴル社会はそれなりに厳しいとお答えになるかもしれません。経済問題等、確かにそういう面もありましょう。でも今求められているスローライフの観点から見た場合、学ぶべき優れた面が多々あるように感じます。日本の四角い社会に対し、モンゴルの円い社会です。私は○が好きでした。定年後モンゴルに5年間住み、行ったり来たりしました。日本に帰国するとはミスが許されない厳しい社会で生きる覚悟がいったからで、しばらく離れていると覚悟がいるものです。一種のピーターパン症候群かも知れません。日本ではわが家族もふくめそのような社会で活動しているわけで、私はすごいと思いました。

5年間延長したことにより、市井で自活するわけですから、その間にモンゴル社会の優れた省力化を見せていただきました。例えば、支払いは、住宅管理費、税金、電気、上下水道、テレビ視聴料などなどすべて1つの伝票で、一回で支払いは終わります。極限の人件費節約の合理化です。しかもこれは20年前の生活です。また、医療は日本でいまこそ地域重点病院があり、かかりつけ医から問題あるとき紹介で重点病院に行くという制度をとっていますが、モンゴルではとっくの昔にやっていました。これも人件費節約、省力化だと思います。

(4) スローライフ 不必要な努力はしない

「交換公文」で外交関係が樹立されました。業界用語で行取ぎょうとりといわれ、行政取極で外交関係を開いたことです。要するに内閣と外務省だけでやったわけです。その年中国とも国交正常化しました。モンゴルは2月24日に外交関係を樹立しましたが、中国とも同年9月29日に国交正常化をしました。中国との国交正常化は国会条約で行われました。外交関係樹立のさい、モンゴルが行取りですんだのは、重要じゃないと言うことではなく、「両国の外交関係の樹立は両国の経済と文化の交流を促進するのに役立つであろう」という簡単なプレスリリースにサインしただけという方式がとられたからです。相手がモンゴルだから成立した外交関係樹立の方式だと思いました。つまり物事を進めるに当たり、無駄な作業をしない流儀です。

日本とモンゴルとの関係も1977年に締結した経済協力条約は両国関係を律する重要な条約になるので、国会条約になりました。この条約の前文に「両国間の外交関係が1972年2月24日に開設されたこと及びこれより前に存在した事態から生じ、かつ、両国間で解決を要する懸案は何ら存在しないことがそのときに確認されたことを想起し、…」とあり、モンゴルのカシミア・ラクダ毛工場建設のために50億円を限度とする経済協力を行うことを決めました。つまり、モンゴルとでも国会条約になることがあります。

モンゴルは1939年のノモンハン事件と1945年8月10日の対日宣戦布告による戦争の被害に対して賠償要求をしていました。日本はモンゴルを承認しておらず、1945年8月10日の対日宣戦布告は承知しなかったため、同意出来ませんでした。また約1万6800人に及ぶ戦後日本人のモンゴル抑留が国際法に反した行為でしたので外交関係樹立交渉が長期間に及びました。しかし、モンゴルを空爆したり実際の戦闘行為が存在し彼我に犠牲がでた点に鑑みて対処しました。つまり、連合軍にたいしての敗戦国として日本は「戦後処理」をしましたが、その一環としてこの経済協力協定を締結しました。

モンゴルは日本の立場を理解して賠償請求をしないことを表明し、この問題を「モンゴル人の心を慰める問題」と表明しました。そのことが外交関係樹立後、上記の経済協力に結実しました。外交関係樹立時の超簡単なプレスリリースはそのことを秘めていました。ことを荒立てなくても、心を込めた解決ができるものです。

(5) スローライフ ものごとは少数、短時間で一発解決

もう一つ例をあげます。1989年5月日本の故宇野外務大臣（当時）が外交関係樹立後、日本の外務大臣として初めてモンゴルを訪問しました。社会主義体制が崩壊し、モンゴルが民主化に向かう時代に日本とともに生きたいとのモンゴル国民の気持ちがあったことを汲んで訪問が実施されたわけです。（12月のモンゴルの民主革命の前です）。

私は現地で準備作業をしました。日本外務省内では大臣訪問のプロジェクトが立ち上がり、現地大使館に対して、大臣が車から降りて何歩で、何秒で入り口にたどり着くかと聞いてきます。

しかし、さてよ、モンゴルにそのようなロジをつきつけても、おそらく腹の中で笑っているかもしれない。「笑い話」の種になりそうだと思います。

(閑話休題)

モンゴルの人は笑い話が大好きです。私も常日頃笑い話を言い合うモンゴルの人たちの輪の中に入り、自分も笑い話を提供するのに慣れました。逆にそれが出来ないと輪に入れません。モンゴル西部の諸アイマクを視察したとき往復13日車で行きました。空から行ってはもったいない。少ないチャンスでモンゴルの地方事情を体験できるからです。毎日言葉どおり、石ころの原野を420kmを目処に走りますので、その間、モンゴル人スタッフと車の中で多くの笑い話をしながら行きました。

そこで私は大臣訪問ロジでやむなく、経験値からありうる問題、現実に判明している事実関係を、本省の質問にそって即答することにしていました。本番ではモンゴル側はきちんとやるだろうとのモンゴルへの信頼性があるからです。

さて実は心配していると、訪問の日も迫ったある日モンゴル外務省のナツァグドルジ儀典長によばれて、外務省にいきました。「さし」でロジが始まりました。その場で当方の要望を聞いて出来ないことは即答でだめ、できることはその場から四方、八方に電話をかけて、セットしていきました。5-6時間かけてセットしまくりました。

そして本番当日、当方の心配をよそに車列はビシッときまり、一糸乱れぬありさま、寸分も狂いが無い。これがいつものモンゴル流で驚かされます。

日本なら、(順不同) ロジ、日程、大臣夫人、携行品、航空機、通信、配車、宿舎、儀典、訪問先、食事 などなど1人以上複数の担当がいてそれぞれ間違いない準備をしますが、ナツァグドルジ儀典長は1人で全部短時間でこなしました。

宇野大臣ご一行は、モスクワからの帰路、モンゴルに立ち寄られるので、大勢のモスクワ組もともに来訪しました。ロジが複雑になりました。モスクワ組も外務省の有力幹部が含まれていますので、モンゴルとの会談、会食など誰がどこに出席していただくかの問題が発生します。

また、ウランバートルー北京間の乗機としてモンゴル航空をチャーターしました。モンゴル側は運輸副大臣がこれにあたり、ある日私を呼び出し、空港でチャーター機の内装の相談です。このままでいいと申しあげたのに二座席を後ろ向きにしたら、4人が懇談できる、真ん中にテーブルをしつらえようと。機中で懇談しないし、後ろ向きの塔上はなにかあった場合危険だと申しあげ、本省に確認し、本省からも一切の改造不要の返事を得てお断りしました。

次に現地で実物検証したら改装されていました。これは、すでに彼の手のとどかない上層部、例えばモンゴル人民革命党の決定か、あるいは彼の思う合理性がこれであれば許さないのかのどちらかです。明らかに彼が正しいと信じていることを覆すのは容易ではありません。合理的であるとモンゴルの人が考えるとぐいぐい来ますが、別の面では困ったことがあると、わりと何でも OK と引き受けて解決してくださいます。

そしてついに再改装して全員前向きで北京向け飛びました。宇野大臣の訪問でノモンハン事件、第二次大戦の和解ができました。モンゴルの市場経済移行に際して、日本は何ができて、どのような支援ができるのか調査することになりました。そのため1989年の夏（因みにモンゴル民主革命の前です）、日本は経済調査団を派遣することになりました。調査団がモンゴル地方視察のための飛行の際、件の機体を使用されました。モンゴル側同行者と日本側と機内でテーブルをはさみ4者懇談ができました。機体は生きていたのです。あのときは北京向けに別の機体を使用したようです。自分たちの頑固も融通むげに役立ってます。

（6）スローライフ 少人数でおよそ一国にあるべきものはすべてカバー

20年前のことで恐縮ですが、日本外務省は代表電話番号の3377人になるのを目標としていました。某大手商社は当時ヨーロッパだけで6000人いました。（後に小泉首相は少数でがんばっている例に外務省をあげておられました。）思い違いでなければ、それぞれアメリカ2万人、中国2万5000人の外務省員がいたと記憶しています。とても羨ましかったです。

ところが、当時、モンゴル外務省は100人くらいで回していました。いくら人口が少ないとはいえ一国です。モンゴル外務省の仕事をこなしていたモンゴル事務官はどのような仕方で省力化を計っていたのでしょうか。省力の極み、すごいと感じていました。事務の見劣りがなかったからです。省力化は例えば、国連にかぎり、出先のモンゴル代表部ですべて対応していました。本省との連絡なしです。国連での票集めにモンゴル外務省を訪問するとき今の国連状況を説明して、支持を取り付けていました。モンゴルの出先はまさに特命全権です。

すくない人数で外国並なのは、外務省だけではありません。故羽田元総理のご夫人は毎年団体でモンゴルのオペラ・バレエを鑑賞に見えていました。モンゴルのオペラ・バレエはモスクワ仕込みで、ロシアのオペラ・バレエの伝統がありました。羽田夫人ご一行は、その質の高さを観賞されるために毎年ウランバートルに来訪されたのです。

（閑話休題）

日本から名古屋の越智バレエ団のプリマが来て、合同公演する予定が、モスクワで航空機の大
幅な遅延で乗継できず、公演当日の朝ウランバートルに到着しました。リハができず、ぶっつけ
本番で公演しました。ぶっつけ本番でも、演者は息がピタリで大好評のうちに公演が終了しまし
た。

越智さんはポリショイ仕込みだったので、厳しくポリショイの教えを守った訓練をしていたわ
けで、モンゴルと日本の2人の師匠は30年前モスクワで兄弟弟子でした。当時の演出をしっか
り質を保って弟子に教えていたのです。ですから初めて会った2人の弟子は息ぴったりの公演が
できたのです。人口が少なくても水準と質が担保されていました。

よその国にあるものは、モンゴルにもあるという感じですが。そこに携わっている人
数が例えようもなく少ないということでも問題ないのでしょうか。よくも、これだけ
の人口で各方面の分野をカバーして国家としての体面を保っているものと感心させら
れます。「簡単にできることを難しくしない」ということだと思います。

(7) 失敗しても許される社会、退職後スキルアップして復職できる社会

大使館の現地職員のトップは大部な日本語モンゴル語辞書を編纂したデンベレルさ
んです。現役時代に準備され機会あるごとに言葉を収集されていたのでしょう、退職
後立派な辞書、一卷本『和モ辞典』、二巻本『和蒙大辞典』Ⅰ、Ⅱを刊行されました。
デンベレルさんは現役時代、困ったことがあっても「なんとかなりますよ、モンゴル
ですから」が口癖でした。失敗も含めて困ったことがあると許すという精神でことが
処理されます。日本のようにとがった社会とちがって円い社会だと思います。日本に
も円い社会の時代がありました。これが私たちにとってどれほど貴重な宝かモンゴル
でそれを思い出しました。失敗を許すということには、人は間違ふものであるとの常
識が前提にあるからです。

モンゴルは陸封国なので国外へ出るという圧力があります。知己の女性新聞記者が
突然いなくなり、編集長に聞いたら、退職して、ロンドンに行って英語の勉強してい
るということです。ところが2年して記者が戻ると、もとの仕事についていました。
このようなことが許される社会です。いまスローライフとか言ってますが、モンゴル
では伝統的に実行済みとの印象です。

II 生活向上を何に求めるか

(1) 日本のリモート型地方分散とモンゴルの首都集中

先進国で唯一30年間ほとんど賃金水準が変わらないという現状を解決できないア
ベノミクスの下で、生活向上があまり望めなくなった日本の若者に「生活向上を何に
求めるか」との質問をぶつけるのは酷かもしれません。しかし、私がこの問題を提起
したのは、日本の青年というより、モンゴルの青年にです。モンゴルで地方居住地か
ら地方中心へ地方中心からウランバートルへの流れは、まさに生活向上を求めてで
した。

しかし、日本では、コロナ下新たな流れが生まれ、リモートで仕事ができるなら地方
居住もありとなっています。コロナ下の地方分散も容易になってきています。一流企
業で全国どこに住んでもいい、本社出勤のときは旅費を支給するとの画期的な現象も
おきています。モンゴルもこのような現象を参考にして、首都一極集中をとめる動き
ができるといいと思います。

(2) モンゴルで都市への流れが止まらない—牧畜は不要か

モンゴルにおけるウランバートルへの集中は私と当時の青年首相アマルジャルガルさんとの激論テーマでした。人口の都市への流れは、牧畜不要論と直結します。都市での経済活動で人口 350 万のモンゴルは生きていけるとの理論に対して、牧民がいなければ牧地が荒れ、国土は砂漠化する。長い国境線も 1 万足らずの軍隊では防備できない。牧民に都市並みの生活を保障する方向でつなぎ止める必要があるとの議論です。

2000 年厳冬期のゾド（雪害）の中、首相と私はゴビ横断を敢行しました。ヘリの故障でドルノゴビ空港手前で不時着し、夕刻手配できた別々の車でゴビ横断になりました。大冒険で、途中ゴビの真ん中での車両故障があり文字通り命からがらでした。夜間 220 km を吹雪の中の荒野を走り、かろうじてゴビの町の幼稚園にたどりつきました。机をならべて 2 人で宿泊寝床をつくりました。

電気を消して、首相が問いました。「花田さんモンゴルの未来はどうあるべきと考えていますか」、私は持論をいいました。「地方の牧民がウランバートル並の生活ができなければ首都集中は避けられません。それを保証するのは情報へのイージーなアクセスです」といい、そのときすでに台湾で開発されていた今のスマホのようなものを想定してハードの裏打ちが必要といいました。首相は「貴方はフレームを作ってからものごとを考えるのですね。」「私が共産主義者に見えるのですか。」「共産主義者の考え方だと思います」。

私は電気をつけ首相を起こして、まくし立て、「米国のゴア副大統領も情報の大きな流れを枠組みにしているのではないですか、彼は共産主義者ですか」と問いました。「モンゴル人が牧畜のようなハードな仕事をしなくても、300 万超の人口は流通の利ざやで食べさせられる」という元首相と「牧畜はモンゴルのファンダメンタルで、家畜がいなければ牧草も育たないし、草原も荒れる。牧畜を廃業することはできないし、首相は砂嵐の中でパソコンで売り買いをすることになりますよ」とひどいことを私は言いました。それに牧民なくして長い国境線を護れないとも言いました。その後、英国大使館で首相も出席する外交団の会食があり（首相はマンチェスター大卒）、外交団の一同は面白いというので、その席で 2 時間激論しました。決着つかず、次いで日本大使館で 2 時間半と激論しました。なお、決着がつかず、日本に来てみなさいということになり、一橋大学で半年研究してもらいました。いま彼は議員ですが、日本にご理解がある方です。

なお、当時 4 人に 1 人がウランバートルでしたが、2020 年全人口 335 万 7500 人ですが、ウランバートルの人口は 159 万 7300 人で、ほとんど半分近いです。人口増加傾向もゆるくなって来ています。問題です。

(3) 日本の若者にアジアの青年と物事を一緒にやる熱意は少ない

モンゴルの留学生がどうして日本の学生は勉強しないんでしょうとか言うのをよく聞きます。日本の若者に勉強について切実さはあまり感じられないという方もいます。

(閑話休題)

私に委託してモンゴルに図書を寄贈してもいいという方が 10 年前現れ、蔵書 4 万冊から 8000 冊をいただき、妻にやっと認めてもらった家計からの経費出費と、友人の篤志、及び妻の知人の運送会社の手配でモンゴル宛て送付しました。コンテナ一本必要でした。そのとき荷造りを最後まで手伝ったのは結局モンゴル青年 3 名でした。日本青年は当初かなりいましたが、二日で消え

ました。日本の青年の熱意の欠如などを話題にしながら 8000 冊を自分たちで荷造りし終えました。最後に自宅にモンゴル青年 3 名をお招きしお礼方々慰労会をしました。

問題はモンゴルの青年に無く、日本の青年にあります。日本の若者にアジアの青年と物事を一緒にやる熱意は少ないと思います。こうなったのは 30 年にわたる日本政府の政策、超低金利、賃金停滞だろうと思っています。最初の失われた 10 年、いえ、日本政府が失った 10 年の原因について、政府シンクタンク NIRA の政策誌に当時書きましたが、実質世界一の所得をドブに捨てたと考えています。30 年たち、今財政は動きがとれなくなっています。

III 近隣国と若者は繋がっていけるのか 若者にやってほしい事業

(1) 日本は過去 50 年で北東アジアに親友を得た

いま 50 年たってモンゴルという唯一の親友を日本は北東アジアで得たというのが実感です。しかし、モンゴルの現状にあぐらをかいて、日本が努力しないとそうでなくなる日がくる兆候はいろいろあります。

今北東アジアの二国間関係を考えますと、おおよそ次表のようになるのではないかと思います。日本は△を○に○は◎に変えて行く努力をすることによって、自国の立地する地政学上の位置で安定的な地位を得られるのだと、モンゴルは教えているのではないのでしょうか。

北東アジアアジア諸国関係図

MHHXX20701

	日本	モンゴル	韓国	北朝鮮	中国	ロシア
日本		◎	▲→△	×	△	▲
モンゴル	◎		◎	○	◎	○
韓国	▲→△	◎		×	○	△
北朝鮮	×	○	×		○	○
中国	△	◎	○	○		◎
ロシア	▲	○	△	○	◎	

(2) 次の 50 年に何をすることが重要

次の 50 年に大きな 2 つの問題で日本がモンゴルにつながることで、北東アジアにおける日本の尊厳を獲得できると思っています。

① 北東アジア国際貨物輸送回廊の構築

モンゴルと日本の貿易は日本の大幅な出超ですし、額もたいしたものではありません。モンゴルの輸出品は主として地下資源でバルキーなものです。

モンゴルの対日貿易 100 万米ドル MHHXX20701

年	2016	2017	2018	2019	2020
貿易総額	34	378.0	587.5	601.0	41
輸出	14.0	14.8	26.5	15.5	9.6
輸入	33	363.2	561.0	585.5	40

『モンゴル国統計集 2022』、ウランバートル、2021

中国は内陸国モンゴルに対して政治的に輸送路を遮断したりします。内陸国に周辺国は支援しなければならず、もよりの港湾へのアクセスを止めてはいけません。これは中国が加盟している海洋法条約で禁じられています。

そこで多国籍公社を設立し、国際貨物輸送を運用することを2000年のアジア学会で提案しました。("Perspective on Strategic Development of Mongolia in the Framework of Northeast Asia", Mongolia's Political and Economic Transition Challenges and Opportunities, pp50-52 The Asian Foundation 2001) その拡大版をこれから築く必要があります。そのためには少なくとも中国、韓国と当時のような好ましい環境を構築する必要があります。

② モンゴルの一国非核兵器地帯への参加

モンゴルが苦勞に苦勞をかさねて構築した一国非核兵器地帯への日本の参加です。非核兵器地帯については今南半球、アフリカではできています。北半球の東部分ではASEANの北半球部分とカザフスタンなど中央アジアの他はモンゴルだけ。モンゴルは拒否権を持つ常任理事国全部と総会に認めさせています。日本はこれに参加し、唯一の被爆国として核禁兵器条約に参加すべきだと考えます。

以上2つの事業をあげました。日本とモンゴルの若者が繋がるには、共通する事業を若者が持つのも1つです。是非日本の若者が主導して上の2つの事業を達成して欲しいと思います。そして北東アジアに輪を広げて欲しいです。(了)